

上須恵区 稲永 誠二 区長に お話を聞きました



4年ぶりの上須恵祇園山笠となりましたが、いかがでしたか？

4年のブランクがあったため、昇き手の人数が集まるか不安でしたが、100人以上集まってきて、問題もなく最後までやり遂げられたので良かったです。

沿道からはたくさんの勢い水をかけられていましたね。

住民の皆さんに勢い水を準備してもらい、たくさんかけていただいたので、とても嬉しかったです。

今後、上須恵祇園山笠をどのようなお祭りにしていきたいですか？

新しいものを取り入れるのではなく、これまでの伝統を引き継ぎ、これから先も続いていくお祭りにしていきたいです。



上須恵に山笠が帰ってきました！

7月23日(日)、上須恵地区で4年ぶりに上須恵祇園山笠(町指定無形民俗文化財)が開催されました。当日は昇き山が、沿道からたくさんの勢い水を浴びながら、上須恵地区を駆け巡りました。

気温30度を超える中、昇き手たちは「オイサー」の掛け声とともに、須賀神社を出発しました。沿道には住民が数多く駆け付けており、昇き手たちにたくさんの勢い水をかける姿が見られました。各組合の集会所ではスイカや飲み物などの「お接待」をして、参加者を力づけていました。沿道の住民に見守られながら、昇き山笠は無事に終了しました。

また、子ども山笠も大人たちに負けじと力強く前に進み、沿道からの声援に応えていました。

観覧した人からは、「初めて上須恵祇園山笠を観たが、迫力がすごかった」などの声が上がっていました。

上須恵祇園山笠とは

毎年7月24日に一番近い日曜日に実施される、上須恵地区の代表的な祭りです。須賀神社を出発し、上須恵地区の各組合の集会所を昇き山し、須賀神社に戻ってきます。沿道から住民が勢い水で応援するなど盛り上がります。

飾り山のテーマ

大人山笠 鍋島騒動

佐賀藩主・鍋島光茂の家臣であった龍造寺又七郎は、暮の最中に光茂の機嫌を損ねたために斬殺され、又七郎の母も悲しみに暮れて自害した。すると母の血を舐めた猫が化け猫となり、光茂を毎晩のように苦しめる。化け猫は光茂の忠臣・小森半左衛門により退治され、鍋島家は救われた。

子ども山笠 忠勇鹿介

出雲の尼子家に仕えていた山中鹿介は、尼子氏滅亡後、密かに尼子氏の再興を狙っていた。尼子氏の遺児・勝久とともに出雲奪還の兵を起したが、毛利氏の反撃に遭い、鹿介は刑死した。主家を変えることが当たり前だった戦国時代において、鹿介の生き方は忠義の見本とされたことから「忠勇鹿介」と呼ばれた。